

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	重要事項説明書内に運営理念や方針を掲げ、引き続き契約時に御家族様へ説明を行い同意を頂戴している。ホーム玄関先スペースにも同書と運営規程を掲示しており、ユニット内掲示板にも引き続き運営の理念・方針を貼る事で職員がいつでも確認出来るようにすると共に実践を心掛けているが、日々の業務に追われてしまい実践・反映出来ているのか振り返りは充分に行っていない。	開設よりの理念・運営方針があり職員には入職時、利用者・家族には契約時に説明している。玄関や事務室内に掲示し職員は業務の傍らに確認し、来訪者にホームの方針等を周知するため掲示している。職員に理念にそぐわない言動が見られたときは、ユニット会議で事例として上げ全体の問題として話し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年同様に本年も区費を支払って回覧を回して頂く事で地域情報を得られるように努めると共に、地域の一員として清掃活動などへも参加している。特に本年は組長として会議などに参加、より地域の方々とお話をする機会も増えている。通勤時や入居者様と散歩に出掛けた際など積極的に挨拶や会話を行う事で、地域の皆さんとも交流を図るよう努めている。夏祭りや敬老会などの行事時には、役員の方は勿論ながら近隣の皆様へも案内ポスターを行い参加を募る声掛けを行っている。	区費の支払い、奉仕活動や区の防災訓練への参加、回覧板による情報の収集等が行われている。今年度はホームを一つの組として組長会議などへも出席している。地域の秋祭りには毎年育成会の神輿がホームを訪れ、獅子舞の披露などもしていただいている。紙芝居、歌、巫女舞などのボランティアの来訪もある。近所の畑の方から蒔越しに農作物を頂くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や行事開催時など、引き続き参加頂いている役員の皆様を中心に声掛けを行う事で、地域へと認知症理解や支援方法などを広められるようにと努めてはいるが、やはり思うように取り組みとして活かせない現状にある。法人施設でも開設しているが、オレンジカフェ参加を通じての情報発信など少しでも地域に向けて認知症に対する理解を深めて頂けるような活動に取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	またの管理者交代などを含め途中やや会議開催がずれ込んでしまった部分は否めないが、概ね2ヶ月毎での運営推進会議を行っている。ホームの現状・日々の御様子や取り組みなどの報告を行うと共に、会議参加頂いている皆様からも質問や意見を頂戴しており、それら意見を基にして一層良いサービス提供を行う事が出来るように努めている。本年はあんしん相談員様にも参加を頂く事で、より色々な意見を頂戴する事が出来ている。	原則、奇数月に開催している。家族、地区評議員、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員などが出席しており、今年度からあんしん(介護)相談員の方にも参加をお願いしている。現状報告や活動報告、ヒヤリハット報告などの後、委員の方々より助言などもいただきながら意見交換を行い、地域の方が手伝えるような避難マニュアル作りについての提案などもお聞きし対応策を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議開催や認定調査などで市担当者様が来所された折などを中心に、引き続き御入居者様の生活の様子やホームの状況・取り組みなどを報告させて頂く事で関係を築いて行けるように努めている。何でも困り事があった際に相談に乗って頂くなど、協力を仰がせて頂けるような良好な関係作りを努めたい。	あんしん(介護)相談員の派遣も行われるようになり、利用者と相談員の方との交流が始まった。介護保険の認定更新には家族より依頼があれば代行申請し、市の調査時には利用者の現況説明を職員からしている。また、家族の了解のもと、区分申請も行っている。市主催の研修には職員が交代で参加しており、制度上の分からないことなどを市職員に尋ね適切なアドバイスを頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き研修などを通じて職員全体で身体拘束に当たる事項の認識を図ると共に、身体拘束をしないケアの実践に向けて日々業務に当たる事が出来るように努めている。安全面に配慮して玄関先の自動ドア施錠(電子ロック)や一部危険が想定される入居者様の居室窓が全開とならないよう制限させて頂いている部分はあるが、外に出るのにも職員が適時付き添うなど行動制限に繋がらないよう注意して対応を行っている。	毎年勉強会を開き学んでいる。ベッドからの転落で骨折につながる危険のある利用者の家族からの要望でベッド柵の仕方を工夫したりセンサー等を使用し回避している。居室には鍵が付けられていて、自ら夜間鍵をして就寝する利用者もいるという。	

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議やユニット会議時、施設内外での研修時、引き続き虐待防止に関しての資料を職員配布するなどして学びを深められるように努めている。日々のケアの中で虐待に繋がり兼ねない不適切なケアが無いが職員同士で確認し合い、引っ掛かる点が何か見受けられた際にはユニット会議開催など話し合いの場を持って問題点と改善策などを講じて行けるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修など参加した一部職員が権利擁護に関して触れ学ぶ機会はあるが、相変わらず中々それらを共有して現場職員全体で理解を深めるには及んでいなかったり共有して直ぐに職員が入れ替わってしまったりとの現状がある。必要性が懸念された際には管理者や計画作成担当者を中心とした関係者間で十分に話し合いの場を持ち、活用・支援出来るよう繋げて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に当たって御家族様が安心して納得した上で契約頂けるように、書面は勿論ながら補足説明を交えつつ引き続き時間を充分に取って懇切丁寧な説明を行うように努めている。契約時の疑問点に対しての説明に加えて、契約日以降の不明点・不安事項などに対しても随時追加で説明を行っている。どうしても難しい話となってしまうものではあるが、なるべく分かり易く説明を行う事が出来るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	引き続き苦情受付に関する事項を契約書及び重要事項説明書内にしっかりと明記した上で、契約時に説明を行っている。幸いにも御入居者様や御家族様共に気さくに職員へと意見・要望を話して下さる部分もあり、その頂戴した意見に関しては会議開催時など職員で検討して対応を図る事が出来るよう努めている。月々様子報告お手紙郵送に加えて、何かあればこまめに電話連絡を入れさせて頂いたり行事参加の声掛けを行ったりと良好な関係を築けるように努めている。また、それらを運営に反映出来るよう心掛けている。	利用者の半数位の方が言葉で要望を伝えることができ、日々の会話の中で意見等を拾い上げている。家族の来訪は毎日の方や月2・3回など様々であるが、訪問時には利用者の様子を伝え要望を聴くようにしている。疑問点があればFAXや電話でも受け付けている。また、ホームの夏祭りや敬老会には家族にも参加していただいている。毎月、「グループホームうえまつ新聞」と居室担当者による利用者の近況報告を家族へ届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従来は年1～2回程度の理事長面談が実施されていたが、本年は実施を希望しているもの都合が合わずに行えていない現状にある。管理者及びユニットリーダーと職員の間でも思うようにしっかり個別面談と言った形では行えていないが、しっかりと個別面談の場を持つ事が出来ていない分を個々の職員とコミュニケーションを多く取るようにする事で、それぞれの意見や提案などを聞いて吸い上げる事が出来るように努めている。職員全員での検討が必要な事に関しては、全体会議及びユニット会議開催時を中心に話し合いを持つと共に意見をまとめ、日々の業務やケアに活かす事が出来るように努めている。	法人よりの連絡、学習など全体会議が2ヶ月に1回あり、利用者のカンファレンスを主に行うユニット会議を月に1回開いている。職員配置はユニット固定であるが、都合で日により変更することもある。法人本部での勉強会が開催されることがあり職員も参加し支援に活かしている。	現状様々な要因があるものと思われるが代表者と職員の個人面談が定期的に行われていない。面談により職員の悩みなどを聞くことにより働きやすい環境の整備等に繋がるのではないかとと思われるので、時期をみて再開されることを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前項に挙げた通り、本年は理事長面談を希望しているが中々行われておらず、思うように相談及び意見の吸い上げは充分に行われていない現状がある。また、それら悩みや意見を集約して伝えても今ひとつ聞いて頂くとの状況には至らず、職員に思うような向上心が芽生えない要因にもなってしまう部分がある。管理者は職員とコミュニケーションを密に図りながら疲労やストレス要因についても引き続き気を配ると共に、相談に乗るなどしてその要因を極力軽減出来るよう配慮している。職員同士の人間関係についても把握出来るように心掛け、なるべく働き易い職場作りに努めている。		

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修には、法人内施設開催分も含めてなるべく多くの職員が参加出来るように、開催日を1日に絞らず行うなど配慮しながら取り組んでいる。外部研修などの情報も収集して極力参加出来るように努めているが、思うように現場を離れて研修に参加出来る機会・余裕が取れていない現状にある。職員のスキルアップに向けて積極的に資格取得に関する相談やアドバイスを行い、しっかりと研修計画を立てながらの対応を図って行きたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業種の方も集う研修会・勉強会などの開催時には極力顔を出して行けるように心掛けて、交流や関係作りを積極的に行っていくように努めているが、引き続き思うように相互での行き来であったり意見交換・交流など図ったりとの場や機会を持つ事が出来ていない現状にある。研修会・勉強会の場だけでは無い関係作りを行っていくように努めると共に、それらをサービスの質向上へ繋げられるようにして行きたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に向けての御本人様・御家族様との事前面接やケアマネージャーを始めとした関係者様とお話し時などを中心に、現在に至るまでの生活状況などの把握及び情報収集が行えるように努めている。勿論ながら全てを把握するには至れていないと思うが、書面や会話を通じて可能な限り不安や要望に寄り添いながら不安をなるべく取り除いて利用に当たる事が出来るようにコミュニケーションを図っている。入居後もこまめに様子など連絡を取り合う事で安心頂くと共に、職員に色々話せるような関係作りを行えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の利用状況やサービスに対しての要望・不安など、とにかく必要であれば何度でもお話を伺いながら御家族様の思いに耳を傾けると共に、入居に至るまでの苦労や入居に当たっての不安事項などを少しでも理解して受け止める事が出来るように努めている。御入居者様を御家族様とホーム側と一緒になって支えて行けるような信頼関係作りにも配慮すると共に、安心してサービスを受けて頂けるように寄り添っての関わりを行うよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様や御家族様からお話を伺い得られた情報の中から現在の状況をしっかりと確認して、どのような支援やサービス提供を必要としているのかを判断しながら改善に向けての支援提案や必要なサービスへの結び付けなどが行えるように努めている。しっかりと見極めて判断してのサービス提供を行えるように心掛けてはいるが、他サービス利用も含めた情報提供や紹介などの支援が思うように実践出来ていない現状はある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御入居者様は人生の大先輩であると言う事をしっかりと念頭に置いて、日々のケアに当たるように努めている。引き続き御入居者様が介助・支援される受け身側となってしまうのでは無く、今現在有している機能・能力をなるべく長く維持して行けるように御本人様が行える部分に関しては協力や声掛けを交えながらご本人のペースでも一緒に行って頂けるように心掛けている。また、食事作りや季節の行事などを中心に御入居者様の方が詳しい物に関しては特に教わり学び相談に乗って手伝って頂くなどしながら、共に生活をさせて頂いている。		

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に御入居者様を支えるチームとして、電話先や面会訪問時など御家族様と直接お話し出来る際には御入居者様の近況報告を行ったり御家族様が気になっている事にお答えしたりと対応を図っている。引き続き遠方の御家族様など中々ホームへ面会に立ち寄って頂く機会が取れない方も多いため、こまめな電話でのお話や月々請求書関係(送付物)と一緒に御利用者様の様子報告(御手紙)や写真などを入れ込んだ新聞など郵送する事で状況報告を行うよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御入居者様も随分と状態が落ちてこられた事で、外出・外泊へ出掛けるのも容易では無くなったせいもあって機会は減ってしまってきてはいるが、引き続き御家族様などが対応可能な範囲での外食や気分転換を図る外出や温泉旅行など外泊を行い馴染みの関係を継続されている方もいらっしゃる。特段「制限させて下さい」との要請が無い限りは友人・知人の方からの手紙・電話・訪問なども受け入れており、気兼ね無くホームへの出入りが行えるような環境作りに努めている。ホームに入居した事が契機となって今までの関係が全て途切れてしまう事が無いように配慮している。	昔のサークル仲間や近所の方の訪問がある。盆、暮れに日帰りで帰宅し、家族と馴染みの衣料品店へ出向き洋服を新調する方やお墓参りをしてくる方もいる。在宅よりの趣味で俳句を作りハガキで投稿していた方が今も俳句を作り応募している。また、冬になると今までの習慣で編み物を始める方もいる。訪問調査で伺った日にも家族と温泉旅行に出かける利用者の大きな荷物が相談室に置かれていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様の個性・性格や認知症状の特性などに配慮すると共に御入居者様同士の関係性などを職員間で情報共有や話し合いなどを行いながら、なるべく円滑に御仲間としての関係を築いて生活を送る事が出来るよう努めている。支え合えるような御入居者様の関係作りを目指し配慮はしているが、長く生活環境が異なる中で生きてこられた皆さんが一堂に会しているため中々調整が難しい部分も多く十分にフォローするなどの対応が取り切れていない現状がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去手続きを終えてサービス終了となった後も、必要に応じて相談や支援など出来る限りのフォローは行えるような関係を築く事が出来ている。入院などでの利用終了となった方にはお見舞いや経過のお伺いなど御連絡を入れさせて頂き、また法人内の関連施設に移られた方に関しては訪問する度に声掛けや様子窺いなどを行い、なるべく関係性を継続出来るよう努めている。今後もサービス終了で縁切れしてしまうのでは無く適宜フォローを続けられる関係作りに配慮して行きたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御家族様・面会者の方とのお話や日々の生活における御本人様とのコミュニケーションの中で、会話や喧嘩からの聞き取りや言動・態度や表情から観察された変化やサインなど、全てを情報収集の機会と捉えて関わりを持って行くよう心掛けている。御本人様がどのような希望や意向をお持ちなのかを把握出来るように努めると共に、それらを職員間で話し合い検討する事で日々のサービス提供へと反映出来るように心掛けている。	言葉で意思を伝えることが難しい方については日ごろの関わりや雰囲気を感じ取るようにしている。利用者の家族を思う気持ちで「子供が疲れているから一時ここを利用してまた帰るんだよ」と話していただいた利用者もいた。現役の頃はサラリーマンだったのか、生活習慣で男性の腕には腕時計がはめられていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接などを通して御本人様や御家族様からこれまでの生活に關してお話を伺うのを基本として、関係者様などからホーム入居に至るまでのサービス利用経過状況などを伺い情報収集を行っている。出来る限り御本人様の生活歴や馴染みの生活などを理解した上で、全職員に共有した上でケアに当たる事が出来るように努めている。十分な理解・把握をしているとは未だ言い切れない部分はあるが、知り得た情報を都度サービスに繋げて行けるように努めている。		

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりやコミュニケーションの中から、認知機能や心身状態、その時の気分・体調や睡眠状態など現状の把握を行えるように努めると共に、それらの状態や気分などに応じて臨機応変に対応を図るように心掛けている。どうしても業務に追われてしまい記録がやや疎かになっている部分は否めないが、引き続き日々の記録や申し送りを通して御入居者様それぞれの過ごされ方や変化などの現状を職員間で逐一情報共有しながら業務に当たる事が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議時には毎回ケアカンファレンスを行い、中々ユニット会議で時間が取れない際には出勤者での話し合いを行い、職員間で課題や改善策など検討し合った上での計画作成に努めている。面会や電話などにおいて御家族様の意見・意向をお聞きしての計画作成を心掛けているが、充分な意見反映を行えていない計画や現状に即し切れていない計画になっている可能性は否めない。	利用者や家族の希望を聞きプランを作成している。短期目標、長期目標ともに定期的に見直しを行っている。申し送りノートの活用やユニット会議でカンファレンスを行うとともに、家族の来訪時や手紙・電話で要望を聞き、計画作成担当者がプランを作成している。都合で来訪できない時には郵送で家族に送り同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	未だ職員によって記録物の重要性に関して認識が薄い現状があったり、日々の業務やケア対応に追われて記録記入が簡略化されてしまったり、伝達や記録が充分に行えていない部分はあるが、引き続き日々の経過表に御入居者様の言動や様子を記録して残り職員間での情報共有に努めている。ケアプランに関しては個別ファイルに綴じているのに変わりはないが、実施内容一覧などを別ファイルに綴じる事で、ケアプランに即した記録作りや実践に繋がれるように努めている。ケアプランの見直しに活かせるような記録を行って行けるように努めたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会や外出・外泊などに関して、契約書上は一応時間や申請手続きなどを設けさせて頂いてはいるものの、基本的に余程夜間帯では無い限りは制限をする事無く柔軟に対応を図っている。人数的な面や運転を要する物に関しては運転可能な職員が居るかと言った面など諸々の職員体制が整っているか否かによる部分も大きい。買い物・外出や通院などその時々生まれる個々のニーズに対してなるべく柔軟な対応を取る事が出来るよう心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	引き続き運営推進会議には地域包括支援センターの職員様やあんしん相談員様や民生委員様などの御参加を声掛けメンバーとなって頂き、意見交換を図ると共に周辺情報の共有や地域での暮らしに役立つような情報収集などが出来るように努めてはいるが、相変わらず地域資源の把握を充分に行うまでには至っていない部分が大きい。例年以上にボランティアの方々を招いて楽しんで頂く機会も思うように取れていない現状があった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム側で全ての対応を取る事が出来るのは協力医療機関である近隣の医院に限ると原則定めて御説明させて頂き、多くの御家族様は往診も頂ける事から協力医療機関をかかりつけ医とされているが、引き続き中には従来からのかかりつけ医継続を希望する方もおられる。御本人様や御家族様の意向を大切に、送迎など家人対応となってしまう部分はあるがホーム入居後も別医療機関受診を継続出来るよう支援にさせて頂くよう努めている。緊急時などにおいても、御家族様の意向を確認しながら対応を図るようにしている。遠方在住の御家族様が、多く協力医療機関外の受診を要する機会が増えてきているが、受診対応が大半職員となっている現状がある。	契約時に利用者や家族の意向を伺い決めている。協力医による月1回の往診があり、多くの家族は協力医への変更を希望している。基本的に通院の付き添いは家族にお願いしている。今年度から看護師資格のある職員が加わったことから体調変化などの素早い対応が可能となったという。健康管理記録を作成し医師との連携も円滑にできている。往診の結果等についてはユニットリーダーが家族等へ連絡している。	

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年は途中より看護師の交代があり、従来は週2回程(2時間程度在中)出勤者であったが現在は介護職と兼務で週3~4回程(終日在中)出勤者となったため、今まで以上に御入居者様の健康状態や服薬状況などを確認すると共に体調変化などに関しても相談や指示を仰ぐなどの対応を図り易くなっている。緊急時には、オンコール体制を取っての支援にて対応している。週1度の健康管理記録をユニット毎にまとめ、そのやり取りなどを通して連携を図る事で個々に適切な医療へと繋げられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本年は何件か入院対応を取ったケースがあったが、御本人様の必要な情報提供を個別ファイルにまとめた情報を元に戸惑う事無く行っている。御家族様と密に連絡を取りながら、入院後も早期退院などに向け適宜関係者の方々と電話や病院に直接赴いての相談や情報交換などを行い状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行うことができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	引き続き契約時に御本人様が重篤化した場合における対応指針に関しては書面で御家族様にお話しさせて頂いており、それら指針説明を行った上で御家族様の意向を一通り確認させて頂いている。看取りを要する御入居者様が未だ居ない事から、その契約時説明から具体的に看取りに関しての詳細を話し合う段階までは至っていないが、看取りが必要となられた際には御本人様や御家族様と話し合い意向を確認するなど対応を図る方向としている。御本人様の心身状態に何かから変化があった際は、こまめに御家族様に都度電話などで報告を入れて対応に移れるように努めている。	開設からの3年間でホームでの看取りを経て亡くなられた方はいない。契約時に「重篤化した場合における対応の指針」を説明しているが、家族も身近な問題として考えられない現状で、利用者が終末期を迎えた時に新たに話し合いを行っていくようになっている。終末期までこのホームで生活していきたいと希望する利用者が多いという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地震・火災・水害などの天災や事故など、様々な緊急事態に慌てず対応が図れるように緊急連絡網や応急処置などのマニュアルを追加・見直ししながら適時整備を行っている。初期対応やAED使用方法など緊急時の対応に関しての勉強会を行う事で職員が対応方法を身に付けられるよう努めてはいるが、職員の入れ替わりも含め思うように研修会・勉強会を開催する機会を持っていない現状にあり、全職員が実践出来るに至っていない。1度は学んでいる職員に至っても、実践は勿論ながら復習も充分に行えていないため不安を感じている部分があり、定期的な研修会・勉強会開催で機会を設けられるように努めたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中と夜間とをそれぞれ想定しての防災訓練及び緊急連絡網の使用訓練を年2回、御入居者様と一緒にしている。マニュアルに基づいて全職員が緊急時に慌てずに動けるような対応を身に付けているとは言えない現状あるため、引き続き必要となった際により動けるような体制作りを努めたい。地域での防災訓練へもしっかり顔を出して有事には協力頂けるようお話もしているが、協定を結ぶ件に関しては開所以来何度か話が挙がりながらも未だ中々話を詰め切れていないまま止まっているため、締結して協力を得られるように努めていきたい。	自動火災報知機や消火器、簡易スプリンクラー等が備え付けられている。避難訓練を年2回実施しており、5月の訓練では消防士の指導による消火訓練と通報訓練を行い、10月の訓練では夜間想定で行っている。相談室にはヘルメットが用意され、「緊急時対応ファイル」や「連絡網」がわかりやすい場所に掲示してある。食料品の備蓄も用意している。	

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の御入居者様の性格や特徴などを踏まえて、1人1人の思いを尊重しながらプライバシーに配慮した声掛けを行うように努めている。また、排泄や入浴時に配慮を要する方には極力同性介助で当たる事が出来るように心掛けているが、長く入居されている事で少し関係作りも出来てきており異性介助になった場合にも大きな抵抗は無く応じて頂けている。とにかく家庭的な雰囲気の中で生活を送って頂けるように努める中で、なまなまな雰囲気になり過ぎて言葉遣いが乱れてしまう部分も度々見受けられるが、会議や個別に話すなど対応を図り気付けて正して頂けるように努めている。	DVDを見ながら年2回接遇の勉強会を行っている。 異性介助を嫌がる利用者は現在いないが、新しく入居した方などの対応は利用者の意思を尊重して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	引き続き思いや希望を上手く言葉に出来ない御入居者様も若干いらっしゃるが、大半の方は自身の思いや希望を訴える事が出来るため、いつでも気兼ね無く意見・要望を表されており、職員もそう出来るような配慮や環境作りに努めている。一方的に職員が決めた事を押し付けるのでは無く、なるべく複数の選択肢を提案した中から御入居者様自身が選んで決める事が出来るような自己決定の場面を作れるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな基本的流れは存在しているが、引き続きその日の御入居者様の体調や様子を窺いながら出来る限り個々のペースに合わせて支援に当たる事が出来るように努めている。なるべく全ての御入居者様において希望に沿って対応出来るよう努めてはいるが、十分に沿い切れない部分も多々あり、相変わらず「何もしたくない。」と考える方も少なく無いため、職員の都合が優先されてしまいがちな現状もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身での選択が難しい方に関しては職員が行う部分はあるが、基本的に日常着に関しては過度な厚着などの調整声掛けを行う程度しか職員は介入を行わず、御本人様のお好きな物を選択して頂けるように声掛けと一緒に準備など行うよう努めている。外出時は特に身だしなみを整えお洒落して出掛けられており、職員もそれを支援するように心掛けている。毎月～隔月程度のペースで訪問美容をお呼びしており、ヘアカットを行うなど御入居者様の希望で対応している。現在該当される方は居ないが、馴染みの行きつけ店がある方に関しては、送迎など御家族様と相談の上で出来る限り対応を図る方向としている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜類の皮剥きや下拵え、粉物を焼くなどの調理、餃子を包んだり団子などを丸めたりとの作業、主に朝食以外の食事作り時には職員だけでは無く御入居者様も出来る限り一緒に調理作業などへ携わって頂けるように声掛け、引き続き家族のように協力し合って作業する事での喜び・楽しさなどを感じて頂けるような支援を行っている。献立作成時には御入居者の皆さんと食べたい物を相談しながら作成したり旬の物や季節に沿った食事を取り入れたりと、極力美味しく召し上がって頂けるような食事提供に努めている。	多くの方が自立しており、刻み、とろみなどの手を加え、全員が同じメニューで職員と一緒に食べている。 イベントの時は特別メニューで、お酒の好きな利用者はノンアルコールでお祝いしている。誕生会には対象利用者の希望する料理を提供している。また、できる方には野菜の下ごしらえや食器拭きなどのお手伝いをお願いしている。道の駅に新そばを食べに行ったりお寿司を食べたりと外食も取り入れられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	しっかりと御入居者様それぞれの食事及び水分の摂取量を記録として残すように徹底しており、その場に居なくても誰もが摂取状況を把握出来るような情報共有に努めている。食事が減っている場合は職員間で原因などを検討し合い、提供形態の変更や調理法・味付け工夫実施など色々試行しながら様子を窺うようにしている。それでも中々改善しない場合は医師や家族などの協力を仰ぎ、栄養補助食品活用や受診しての相談などを行って対応している。全ての食事が職員の手作りである利点を活かしながら、個々の体調や好みに合わせた柔軟な対応を図る事が出来るように努めている。		

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には声掛けを行い促しての対応を図っており、自身での口腔ケアが可能な方は歯磨きを、自身では厳しい方には声掛けと共に介助を交えながら歯磨きやうがいなどを、それぞれ口腔内の保清に努められるように対応を図っている。就寝前には併せて義歯洗浄も行っている。拒否が強い方も声掛けや介助を交えても思うように行えていない現状もあるが、口内の汚れや口臭源の除去に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ使用状況、リハビリパンツやパットなどの汚染状況、排便量など、それぞれの入居者様毎に排泄チェック表に排尿及び排便の記録をしっかりと行い、記録を元として個々の排泄パターン把握が行えるように努めている。リハビリパンツやパットを使用している方でも、なるべく失禁など汚染が無くトイレでの排泄が行えるように定期的なトイレ声掛けをして排泄を促すよう対応を図っている。定時誘導の際にさり気無い声掛けが出来ていない部分があるため、配慮するように徹底して行きたい。	半数の方が自立しているが、一人ひとりに合わせ時間で声がけをトイレでの排泄を基本としている。夜間のポータブルを使用する方はいないが厚手のパットに変更するなど、利用者の状態に合わせて工夫している。新しい種類のリハビリパンツやパットを使用するときは家族に連絡して承諾を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便がスムーズに行えるような服薬されている御入居者様が多くいらっしゃるため、服薬と併せてしっかりと水分摂取頂けるように声掛けを行っている。排泄チェック表を活用しながら、それでも排便間隔が空いてしまう方に対しては看護師と相談・連携を図り必要に応じて浣腸や坐薬挿肛など対応を図っている。ただ水分を飲んで頂くよう声掛けても飲み進まない部分もあるため、職員が近くで一緒に水分補給を行ったり味・品を変えての水分補給を促したりと色々工夫しながら対応を図るよう努めている。また、適度に身体を動かす機会を持って頂くため、レクでの体操・散歩取り入れや日常生活動作内で少しでも活動量が増やせるような機会の提供へと留意するように心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	引き続き全ての御入居者様の希望通りとは行かない現状はあるが、体調を見ながら1日3名ずつ平均週2回程の入浴をして頂いている。入浴は夜に行っていた方も多い様子の中、職員の勤務配置都合上で日中のほぼ決まった時間での入浴実施とはなってしまうが、職員と世間話をしながら希望に合わせて個々のペースでゆっくりと入浴して頂いている。入浴剤を使用したり、季節の湯(柚子湯や菖蒲湯など)をしっかりと取り入れたり、少しでも楽しんで頂けるように配慮している。	1週間に2回予定している。1日3名くらい、平均して30分位かけて入浴している。毎回入浴剤を使用しているが、季節に合わせて「ゆず湯」、「リンゴ湯」なども行っている。お風呂好きな利用者が多く、浴槽につきりゆっくりと職員との会話を楽しみながら入っている。脱衣場は床暖とエアコンでコントロールできるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	誰かが起きていると気を遣って中々自室に戻り難い方もおられるため一応ある程度の時間で自室に戻って頂くよう声掛けは行っているが、基本的に就寝時間を定めてはいないので自室に戻って改めてくつろぐなどされており、好きな時間に自由に休んで頂いている。職員も個々の生活パターンやリズムを把握出来るように努め、寝具や室温・照度などそれぞれの御入居者様が安眠出来るように調整しながらの支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの御入居者様の処方箋・薬情報などをユニット毎に1冊のファイルにまとめて、職員がいつでも処方量や薬の効能など必要な情報を確認出来るようにしている。食事前の薬をお渡しする際には、1人ずつしっかり名前と日付などを確認して時に声に出すなどしながら、確実に服薬出来たかどうかを飲み込む最後まできちんと確認するように努めている。服薬後も空いた薬袋は直ぐに捨ててしまうのではなく薬用のゴミ箱に入れる事で、後から正しく飲んでいるか否かの再確認が出来るように配慮している。配薬ケースは1人の職員だけでは無く複数で何重もの確認を行い、飲み忘れや漏れが無いかチェックする体制を取っている。		

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを持って生活しているかは不安なところながら、御入居者様それぞれの好み・趣味や得意とされている事などを職員は把握出来るように努めていると共に、それぞれが楽しく穏やかに生きがいを 持って生活出来るような材料を提供する事が出来るように配慮している。とにかく色々な事を一緒に行きながら心掛け、出来る事や得意とされる事に関しては声掛けを行い力をお貸し頂くなど、御自身の役割として得意分野で力を発揮して頂けるように努めている。また、その際には感謝の意をお伝えする事で喜びとして頂けるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中々職員体制が整わない中で、個々の御入居者様の希望に沿っての支援が充分に行えていない現状はあるが、引き続き対応が取れる限り御本人様の希望に沿えるような外出支援に努めている。年々足腰の痛みが出たり徐々に意欲低下されたりと散歩・外出に対して拒否される方も増えてきたが、なるべくホーム周辺の散歩など肌で直に季節を感じて頂ける機会を持つ事が出来るように声掛けを行っている。買い物しや月1回程の計画を立てての外出レクやドライブ食などへの抵抗は相変わらず少ないため、楽しみながら外出を頂けている。	夏場の暑い時期と冬の道路に雪があるときなどを除き近所を散歩している。城山動物園近くが緩い坂道になっていて利用者には年々大変になってきているので坂のない道を探しながら散歩している。善光寺への初詣に始まり、月1回は外出行事を計画し、春のお花見、アジサイ見学、紅葉狩り、バラの見学等、家族にも声をかけ出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度のお金を自身でお持ちの方は一部いらっしゃるが、入居されてから御入居者様が自己管理されているお金は無いに等しい。現在ホーム側で一旦全て立て替えた上で月々の請求と共に必要経費を請求・徴収する形を取っているため、御本人様が使用する機会はほとんど持っていない部分はあるが、御家族様と相談の上で消耗品や物品の買い出しに出掛けた際など、必要時にそれぞれの希望に応じて使用して頂く機会も極力作れるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や関係者様から何かしらの事情により禁止・制限などが成されていない限り、御入居者様から希望があれば電話をこちらから掛けたり御家族様やお知り合いの方から受けた電話を代わったり、御家族様や知人の方とのやり取りが行えるように支援している。引き続き、こちらから手紙などを送付された方は今のところ居られないが、御家族様や知人の方より年賀状や季節の挨拶などのお手紙や贈り物が届き、受け取られる御入居者様も多くいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム及びユニット全体、毎日しっかりと清掃を行う事で、常に清潔で快適な居住空間で御入居者様がお過ごし頂けるよう心掛けている。思うように貼り替えなどは行えていない現状はあるが、リビングや廊下の壁には御入居者様と一緒に作成した作品や外出レク時などの皆さんの御様子写真を掲示して飾っている。玄関やリビングのテーブルなどへ季節に沿った飾り物・花々を配置する事で、目でも季節を感じながら居心地良くお過ごし頂けるように努めている。ホームの作り上どうしても部屋の戸含めユニット内の扉が似た作りとなってしまう分難いため、それぞれの御入居者様の居室には御自身で選ばれた写真を入り口に飾ったり暖簾を掛けたり、トイレもイラスト入りの文章で明示して分かり易いように工夫を凝らしている。	玄関を挟んで左右に両ユニットがある。玄関には散歩や日向ぼっこ時に使う麦わら帽子が置かれていた。ユニットごとに飾りつけは違うが、訪問した時はハロウインのかぼちゃの飾りつけがされていた。利用者の作品の塗り絵やスナップ写真、お風呂のスケジュール表がリビングに張り出され、温かな雰囲気を感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	引き続き“たまり場”となる空間をあまり多く設けられない部分はあるが、ソファを配置して気の合う御入居者様同士が会話を楽しまれたり一休みされたりとお好みに過ごして頂けるような環境作りに努めている。天気の良い日や暖かな時期には廊下奥の窓辺に椅子を運び、お茶傍らに日向ぼっこを兼ねての井戸端会議が開かれている。また、中庭にもパラソル&チェアを用意しており、暖かい時期には設置してお茶会など語らう場が持てるように工夫している。		

グループホームうえまつ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを利用して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく新しい環境に移っても戸惑いが少なく落ち着いて生活を送って頂けるように御入居者様や御家族様と相談しながら、入居時を中心に適時使い慣れた物をお持ち頂くよう声掛けを行う事で、自室が御自身の馴染みの空間となるような環境作りに努めている。食べ物などは衛生面を考えて自室での保管など制限させて頂く面はあるが(職員にお預け頂き把握出来るよう声掛けている)、特にその他は危険の無い限りは制限無く何でも持ち込んで頂けるように対応を図っている。	鍵のかかる居室のドアの横には利用者の名前が付けられている。家庭からテレビ、いす、ミニタンス、衣装ケースなどが持ち込まれていた。家族の写真やホームからのお祝いの品なども飾られていたがきれいに整理整頓されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全体的にバリアフリーとなっており、御入居者様の移動に支障をきたさず安全に生活して頂けるような作りとなっている。ヒヤリハット報告などの気付きを通して、それぞれの御入居者様が出来る事や分かる事に関して職員がしっかりと様子観察を行い理解・把握した上で、快適・安全になるべく自立をした形で生活を送る事が出来るように努めている。		